

平成30年度

明神小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①主体的に学習に取り組み、表現できる児童の育成
- ②幼小中一貫教育による、系統的・継続的な指導方法の工夫

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 校長:中野裕文 教頭:平野貴義
 教諭 仁木博子 教諭:坂東真由子(低学年担当)
 (研修主任) 教諭:中妻おかり(中学年担当)
 教諭:河野泰弘(高学年担当、教務主任)

校長

中野 裕文



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

| 児童生徒の状況 | 具体的目標(めざす子供の姿) | 成果指標 | 中間期の見直し | 取組状況 | 達成状況 | |
|---------|---|---|--|---|--|--|
| よ さ | 朝の活動の時間や授業中は、与えられた課題に対して真面目に取り組むことができる。基本的な計算に対しては繰り返し学習により、一定の成果が上がっている。 | ①正しく計算をしたり、漢字を書いたり、文章を書いたりする力を身に付けている。 ②家庭学習にしっかり取り組むことができる。 | 確認テストを実施し、正答率90%以上の児童が80%以上いる。 | 児童が正しく漢字を使用できているかどうかをチェックするため、毎週1回以上、日記を書く宿題を出す。文章の中における使用状況から実態を把握するようにする。 | ①毎週、火曜日・金曜日の朝の時間に漢字練習・計算練習に継続して取り組み、月に1回確認テストを実施した。 ②家庭学習には、ドリルやノートを使って漢字・計算練習を毎日出すようにした。 | ①確認テストを実施すると、正答率90%以上の児童が85%であった。当初の成果指標は達成された。 ②宿題提出率は90%以上であるが、学級によりばらつきがあった。 |
| 課 題 | 文章を書くときに、漢字やローマ字を使わない、ものさしを使わないなど、丁寧さや正確さに課題のある児童がいる。家庭による個人差が大きい。 | ①朝の学習活動で、漢字・計算練習に繰り返し取り組む。 ②毎日、宿題の提出状況を把握すると共に、放課後等に個別指導を行う。 | ①朝の学習活動を計画的に実施し、週に1回、「確認ミニテスト」を実施する。 ②毎日宿題をほぼ全員が提出する。 | | 評価 B | 次年度における改善事項 全児童が家庭学習を毎日確実に提出できるよう、担任だけでなく複数教員が関わる必要がある。また、基礎的な学力が定着していない児童については、放課後の時間を利用して個別指導を行い、改善に取り組んでいく。また、教員と保護者が連携し同じ目線で指導する。 |

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況 | 具体的目標(めざす子供の姿) | 成果指標 | 中間期の見直し | 取組状況 | 達成状況 | |
|---------|---|--|---|---|--|--|
| よ さ | 教師や友達の話を聞き、自分の考えをもち、進んで発言しようとする児童が多い。友達などのよさに気づき、文章を書くことができる。 | 話す・聞くなどの基本的な学習態度を身に付け、理由を明確にして自分の意見を発表することができる。 | 「ふりかえりカード」等で、「自分の考えや思いを人に伝えることができた」と自己評価をする子が80%以上いる。 | ふりかえりカードだけでなく、よい話し合いができたときは、その都度ノートに感想を書くなどして、児童の成功体験を蓄積するようにした。また、その時間に使う「話し方・聞き方」を取り出し、重点的に指導するようにした。 | 主に算数の時間に、「話し方・聞き方」のポイントを活用した指導を実施した。また、電子黒板を活用し、ノートの書き方を児童に分かりやすく示すようにした。また、話し方・聞き方の動画を提示し、具体的な事例を示しながら指導を行った。 | 「話し方・聞き方」の指導にうまく取り組めた学級と、やや困難を伴う学級があった。しかし、「ふりかえりカード」における児童の自己評価は80%であり、「自分の考えや思いを人に伝えることができた」と感じる児童が多かった。 |
| 課 題 | 正確に文章を読み取る読解力、思考力、表現力が弱い。問題を解くときに、なぜそうなるか説明できない。自分の思いを説明できない。 | ①教室に掲示している「話し方・聞き方」についてのポイントを活用した指導を行い、一分間スピーチや日記指導等で、自分の意見を発表する機会を設ける。 ②電子黒板の活用・板書・ノート指導を効果的に行う。 | ①「ふりかえりカード」等で、定期的(月に1回)に、自己評価を行う。 ②校内研修で指導方法について共通理解をする。 | | 評価 B | 次年度における改善事項 校内研修で取り組み方を共有しながら進めたい。今年度うまく取り組めた学級の事例をもとに、全校で方法を工夫しながら、スモールステップで指導する。また、朝の会・帰りの会における1分間スピーチは今後も継続して行い、学級の全ての児童が自分の意見を発表する機会を有効に活用していく。 |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況 | 具体的目標(めざす子供の姿) | 成果指標 | 中間期の見直し | 取組状況 | 達成状況 | |
|---------|--|---|--|---|---|---|
| よ さ | 得意なことは、何度も挑戦できる。やらなければならないことは、やり遂げようとする。素直に指導を受けられることができる。 | 自ら課題を見つけ、自主学習に取り組み、学ぶ楽しさを感じることができる。 温かく思いやりのある学級の雰囲気づくりをする。 | 「学習アンケート」を実施し、『自分から進んで取り組むことができた』と答える児童の割合を80%以上にする。 | 家庭学習の手引きだけでなく、筆箱の中の学習道具を統一するように、学年便りと呼びかけた。授業中の手遊びを防ぎ、授業に集中する環境を整えたい。 | ①3年生以上の学年で、家庭学習の手引きをもとに、自主学習に取り組んだ。低学年児童は、音読・漢字・計算の練習を毎日の宿題に出し、自主学習に取り組めるような基礎づくりをした。 ②グループ学習に意欲的に取り組む場面設定を工夫した。 | ①ほぼ80%の児童が『自主的な取り組みができた』と答えた。ただ、個々の児童の個人差があり、ほとんど自主学習に取り組めない児童も数名いた。 ②中学年以上で、グループ学習に取り組む姿勢が育ってきた。 |
| 課 題 | 自主的に学習する態度が身につけていない。苦手な問題はあきらめがちで、もっと学習したいという向上心に乏しい。 | ①家庭学習の手引きを配布し、自主学習の取り組み方を全児童に周知し、優れた自主学習ノートの取り組み例を紹介する。 ②支持的雰囲気のある学級経営をする。 | ①学年便りに、家庭学習や自主学習の取り組みについての記事を掲載し、懇談会で保護者に知らせ、家庭との連携を図る。 ②月に1回は、全ての児童の意欲的な活動を賞賛する。 | | 評価 B | 次年度における改善事項 グループ学習に取り組む、児童が相互に交流する機会を増やし、支持的雰囲気のある学級経営とその改善に取り組んでいく。また、自主学習にうまく取り組めない児童には個別指導を行い、漢字・計算・音読・ノート指導など、基礎・基本を身に付けるような指導を行う。 |

平成30年度 学力向上ロードマップ

